

ひとりごと

夢

教育行政に関わるようになって、何度も小学校に通っていた頃を思い出す。

私にとって何も考えずに楽しく過ごしていた夢のような時代だった。

それでも、小学5年生のとき、私の学年で学級崩壊が起きたクラスがあったり、私のクラスでも女子のグループ化が激しくなったり、良くないことが起きていた。そのためか、小学6年生のクラス替えでは、今まで担任を持ったことがあり、かつ評判の良かった先生だけで3クラスの担任が構成されていた。私の小学校は毎年違う先生が学年の担任を持つことが多かったので、結構衝撃的な出来事だった。今思い返すと、先生方がこの学年が良くなるように考えてくれた結果なのだと感じる。

小学校の卒業論文には安直に、先生になりたいと書いていた。小学1年生のときに担任だった先生に憧れていたからだと思う。小学6年生では別クラスの担任となり、少し残念だなと思った記憶がある。その先生は人の個性を引き出せるような先生だった。前に出ていけない子も前に出ていけるような声かけや取組が多々あった。私は他の子の卒業論文を見て、そのクラスがその先生の言葉の魔法にかかっていたことを知った。非常に羨ましかった。

今私は、教師になる資格を持っていない。どこかで私は教師になれない、と諦めてしまった。社会人になってしばらく教育とは関係のないところにいたが、今年度文部科学省に派遣されて教育行政に触れる機会が増え、あのときの思いが蘇ってきた。今からでも教師になれる方法があるらしい。今からあのときの夢を追いかけてもいいかもしれない。

(M.R)